

平成24年度小山町事務事業評価二次評価結果

	事務事業名	事業の概要	総合評価 一次評価	二次評価	評価委員意見
1	生活交通対策事業	公共交通を利用する町民を対象に、通勤・通学・公共施設利用・買物・通院等の用途に対し、JR御殿場線の利便性の向上と利用促進や新たな交通システムや交通環境の整備を検討し、誰もが利用しやすい小山町の公共交通を充実させる。	B	C	・新たな方向性を試行されたい。 ・平成25年度でしっかりとした方向性を示されたい。
2	企業立地振興事業	町内企業や新規参入企業を対象に、小山町役場内の企業立地相談に応じやすい体制の構築、立地企業に対する補助制度の創設・適用、企業交流会を通じた町内商工業者と関連企業との相互連携の強化、内陸のフロンティアを拓く取組への協力等の手段により、地元雇用の機会を広げ、地域の経済力を高める。	B	C	・内陸のフロンティアを拓く取組を実現するためにも、事業を拡大しても良いのではないかと。 ・企業誘致には徹底的な情報収集が必要なので、専任職員の配置について検討すべきと考える。 ・平成25年度には、工場立地概要調査を必ず実施されたい。
3	公用車管理事業	主に庁内職員と公用車を対象に、総務課で公用車の一括管理を行い、管理経費の節減を図る。	C	C	・小山町の管理経費について他市町と比較して検証することも必要だと考える。
4	公債費(元金)	一般会計における起債(借金)残高を減少させ、公債費を抑制することにより、財政の健全化を目指す。	C	C	・内陸のフロンティアを拓く取組関連事業への投資を想定しながら、全体を抑制するための具体策について検討されたい。
5	電算管理	小山町職員が使用する電算機器及び外部への情報発信機器について、停電、OSのサポート切れや外部記録媒体を経由してのコンピュータウィルス感染、機器の故障等による業務停止期間を最小限に抑える対策を実施し、行政事務の継続性を確保することによって、住民サービスの維持を目指す。	B	B	・アクシデントで停止回数が増えたのはカウントする必要はなく、目標は達成されていると考えてよいのではないかと。
6	農村公園管理費	足柄ふれあい公園と市民農園の利用者を対象に、憩いとコミュニティ活動の場を提供し、住民の健康増進と交流促進を図り、地域農業を活性化し明るく住み良い農村の生活環境を創造する。	C	C	・市民農園事業を委託しているのであれば、契約内容にもよるが、委託先が適当か否かを検討する必要もあるのではないかと。 ・施設PR方法について検討する必要があると考える。
7	農業振興費	学校給食に年間を通じて、米や野菜が提供できるよう、学校給食地産地消推進協議会を設置し、関係者によるシステム作りを行い、地域農産物導入率の向上を図る。	B	C	・目的を明確にする必要があると考える。(何のために学校給食への地域農産物の使用を促進するのか)それによって手段が変わってくると考える。
8	観光振興事業	観光振興条例・観光振興計画を制定し、様々な手段により観光振興を図り、町の知名度を高め、入込客を増加させる。	B	B	・事業範囲が広すぎるため、評価が容易に実施できるよう、適切な事業規模に分割することが望ましい。 ・また、入込数を増やすため、手段の見直しを図られたい。
9	農商工連携事業	町内の商工業者・農業者・サービス業者等によって組織した農商工連携協議会への助成を通じ、地場産品のPRや新規商品の開発、新たな消費の創出を図る。	C	C	・町主導ではなく、民間をもっと活かす方向を模索されたい。
10	フィルムコミッション支援事業	テレビ・映画等の撮影・制作に欠かせない要素を揃え、町のPRと関係業種の強化を図る。	A	A	・担当1人でよく成果を出している。

平成24年度小山町事務事業評価二次評価結果

	事務事業名	事業の概要	総合評価 一次評価	二次評価	評価委員意見
11	保育園園舎耐震化事業	<p>・小山町立の「きたごう保育園」の耐震化及び多様な保育に対応するため、町立「北郷幼稚園」敷地を拡張して、平成26年度当初を目途に幼保一体化施設を建設・移動させる。</p> <p>・町立「すばしり保育園」の耐震化及び多様な保育に対応するため、町立「北郷幼稚園」に併設して幼保一体化施設を建設する。</p>	B	B	<p>・方向性の通り、耐震化等を進められたい。</p> <p>・全体の公の施設のあり方についての検討と摺り合わせる必要があると考える。</p>
12	放課後児童クラブ事業	<p>町内5つの放課後児童クラブに在籍する児童及び指導員を対象に、児童の放課後活動における健全な育成、耐震化を含む安全な施設の提供、研修会等参加を通じての指導員の資質向上に努めていく。</p>	C	C	<p>・方向性の通り、事業を見直されたい。</p> <p>・全体の公の施設のあり方についての検討と摺り合わせる必要があると考える。</p>
13	自主文化事業	<p>総合文化会館金太郎ホール等を活用した自主文化事業を通じ、町民が舞台芸術に触れ合う機会を提供し、町民の文化意識の高揚を図る。</p>	B	C	<p>・町民ニーズを把握しながら、行政がどの程度関わるべきなのか、再検討が必要と考える。</p>
	全体所見	<p>・「指標」の設定について、活動指標(アウトプット)と言っているのは、仕事を実施したか、しなかったか或いは、出来たか出来なかったかという観点での仕事内容について記述されているが、一般的なアウトプットは、ある資源が投入された時に出てきた結果として考えられるものである。例えば、ある仕事をした結果、入場者がこれだけ出来た、来場者数や開催回数が増えたとかということである。</p> <p>・小山町の場合には、どのような仕事をしたのか、しなかったのがアウトプットの中心になっていて、その結果、成果指標と言われているのは、その仕事が行われたことにより、地域社会にどのような変化が起こったのか、が一般的にアウトカムだと思われる。アウトカムの指標が、一般的なアウトプットの指標とアウトカムに近いものが混在しているために、有効性の評価がずれていると思われる。</p> <p>・経費を節約することに注力しているとの印象を持った。担当者も、しっかりと節減でき、良かったと評価しているが、アウトカムを理解しながらの評価に切り替えていくべきと考える。</p> <hr/> <p>・事業名が何の事業を指しているのかが見て分かるような事業名でないと、評価が困難。</p> <p>・事業を評価する単位だが、例えば、観光の部分だと観光条例や計画等色々含まれて広すぎるので単位で区切った方が良いと思われる。</p> <p>・担当課が、事業の妥当性、効率性の意味を理解して共有する必要があると思われる。</p> <p>・プレゼンテーションの中で、数値の誤り等があり、所属長のチェックが甘いと感じた。</p> <p>・総合計画の中で、政策を実現するために施策があり、施策を実現するために事務事業があるという構造の中で、政策は部長クラス、施策は課長クラス、事務事業はその下という風に、施策の目標管理に所属長が責任を持ってマネジメントする体制を築いていくことが望ましい。</p> <p>・施策に照らして、どの事務事業が効果があったのか、なかったのかを評価し、効果があったものを伸ばし、ないものは廃止するような評価の在り方を模索するべきと感じた。</p>			